

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、魚類に対して有害なケラチウム属が最大20細胞/mL、コクロディニウム・ポリクリコイデスが最大0.02細胞/mL、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が最大1細胞/mL、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が最大1細胞/mL確認されました。

ケラチウム属は100cells/mL以上で、養殖魚の餌食い悪化が懸念されます。

アレキサンドリウム属及びディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム	コクロディニウム・	アレキサンドリウム	ディノフィシス
	(m)	(℃)		(mg/L)	属	ポリクリコイデス	属	属
A 藻津 (-/36m) 【09:14】	0	25.9	32.0	7.6	0	0.02	0	0
	5	24.4	33.8	7.4	1	0	0	0.02
	★ 10	23.9	33.9	7.3	0	0	0	0
	15	23.7	34.0	7.4	-	-	-	-
	20	23.7	34.0	7.4	-	-	-	-
B 大島中央 (-/32.4m) 【09:25】	0	26.3	29.5	7.8	0	0	0	0
	★ 5	24.4	33.8	7.4	3	0	0	0
	10	23.9	33.9	7.4	0	0	0	0
	15	23.8	34.0	7.4	-	-	-	-
	20	23.6	34.0	7.4	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.6m) 【09:32】	0	26.2	28.5	7.7	1	0	0	0
	5	24.5	33.9	7.5	0	0	0	0
	★ 10	23.9	33.9	7.4	3	0	0	0
	15	23.8	34.0	7.4	-	-	-	-
	20	23.7	34.0	7.4	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/16m) 【09:49】	0	27.3	30.4	7.6	16	0	0	1
	5	23.6	33.8	7.2	17	0	0	0
	★ 7	23.4	33.9	7.2	20	0	0	0
	10	23.1	33.9	6.8	13	0	0	0
	15	22.8	33.9	6.5	-	-	-	-
E ヒロウラ (-/25.2m) 【10:09】	0	27.7	27.4	8.1	2	0	1	0
	5	23.9	33.8	7.3	15	0	0	0
	10	23.4	33.8	6.8	12	0	0	0
	★ 15	23.2	33.8	6.7	12	0	0	0
	20	23.1	33.9	6.7	-	-	-	-
F 田ノ浦 (-/6m) 【09:01】	0	26.3	31.1	7.6	-	-	-	-
	★ 5	23.9	33.6	6.2	3	0	0	0
G 青瀬山 (-/13.6m) 【09:56】	0	27.2	30.7	7.8	0	0	0	0
	5	23.4	33.8	7.0	16	0	0	0
	★ 10	23.0	33.9	6.7	15	0	0	0

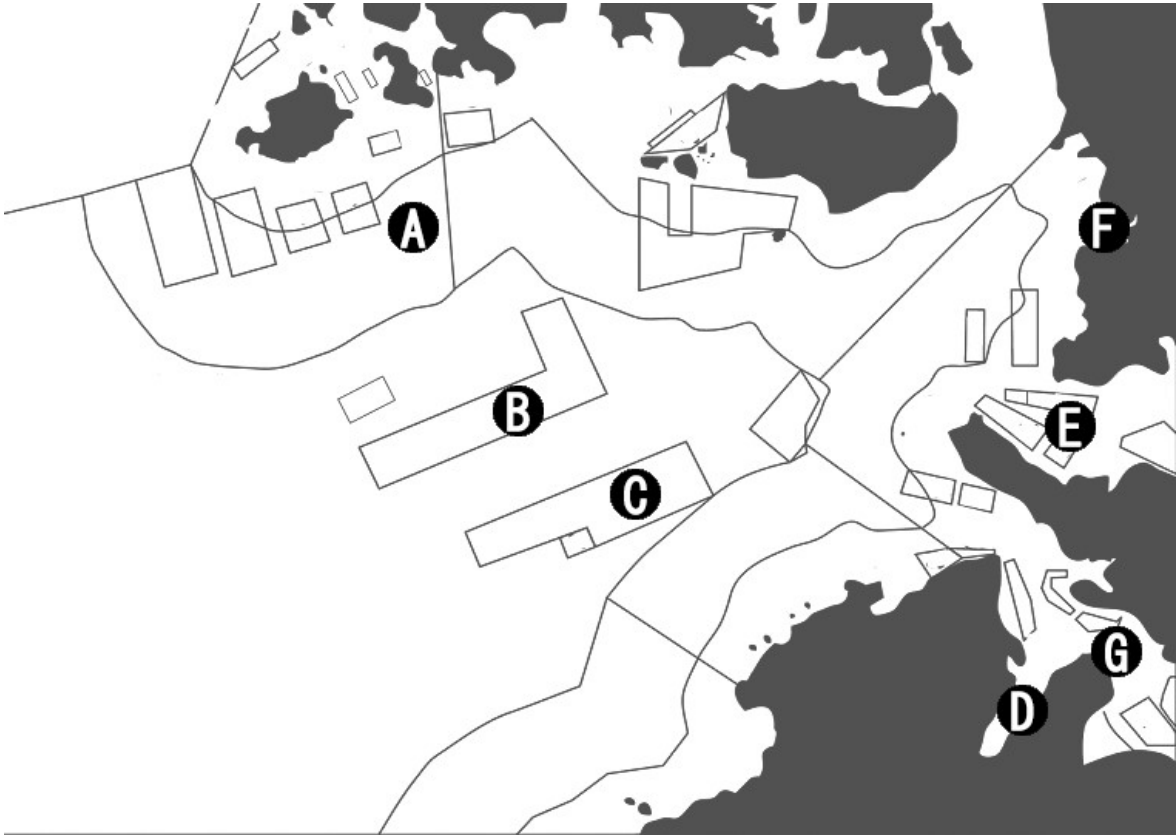
クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

貝毒原因プランクトンのモニタリングのため、藻津及びヒロウラの0m、5mの深度から採水した海水の濃縮検鏡を実施しています。

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津

B: 大島中央

C: 小筑紫中央

D: 栄喜奥
- E: ヒロウラ

F: 田ノ浦

G: 青瀬山

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※ 3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチャオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Ceratium</i> spp. (ケラチウム属)	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—			
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	0.5 cells/mL	—	—	2～7月

※ 1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※ 2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度
※ 3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。